

# 仙台陣屋かわら版

第八十一号

(平成二十三年十一月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: [jinya@town.shiraoi.jp](mailto:jinya@town.shiraoi.jp)  
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-852666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

## 【特集】

平成二十三年度しらおい歴史講座

### 第一講

町を変えたできごとと先人の願い(一)  
〜先史時代から江戸期にかけて

七十九号でお伝えしました、しらおい歴史講座は中村齋氏を講師にお迎えし、九月十七日より開講いたしました。今年度は「先人の歩みから考える『これからの白老』」何が人々の生活を変えたか〜」をテーマに計四回の講座を行いました。

第一講では先史時代から近世期に至るまでについて、自然環境、文化同士の接触、外圧など、人々の生活を変えた要因や出来事が紹介されました。

参加者からは、日頃学ぶ機会が少ない、縄文時代など古代史における本州と北海道との違い



や、町内の遺跡、アイヌ民族についてなど多くの質問が寄せられました。

### 第二講

(二)〜明治期から昭和二十年の敗戦まで

第二講では明治期から昭和二十年の敗戦までを扱い、天皇を中心とした国家の近代化や諸外国との戦争など、人々の生活が大きく様変わりした時代の出来事を、講師の体験を交え紹介。戦時下の白老での出来事など、参加者を交えた講座となりました。中には戦争を実体験した方もいて、それぞれの体験を語られるなど、第三講の戦後へとつながるお話も寄せられました。

### 第三講

(三)〜昭和二十年から平成の今日まで

第三講では戦後から、高度成長、バブルなど経た今日までの流れを紹介。新たな価値観【民主主義】のもと戦後の復興に取り組み、発展を遂げた日本のできごとについて

て、講師・参加者の体験を交えながら行われました。中村齋氏は、国際経済に翻弄される今の日本に対し、世界相手の大きくならずすぎた経済ではなく、地産地消を前提としたうえで、不足したものを交易でまかなうコンパクトな経済を提言。不要なリスクを抱えるべきではないと論じました。

### 第四講

どんな町にしたいか。そのための準備。  
子どもたちのために考える『これからの白老』

本年度最後の講座となる第四講では、今までの講座をふまえた総括となりました。



「望ましい町をつくるためには、まずどんな町にしたいのか、ふるさと像を描くことが大事。例えば、昔のように小さな町でもいいのではないか。そのためにはインフラの整備が課題の一つである」と語られました。また高齢化の進んだ白老ではお年寄りも貴重な人材であり、その人材の知識・技能を活かした町づくりを進めると共に、将来を担う子どもたちに残す、【ふるさと】ということを意識した町づくりをしていかなければならないと論じま

した。そして未来の白老町のキーワードの一つである、『民族共生の象徴となる空間』については、中核を担わなければならぬ町として、今後の有りようについて意見が交わされました。

### 〈講座を終えて〉

何が人々の生活を変えたのかを改めて振り返ることは、町づくりの準備に欠くことができないものです。より良い町を目指すためには、日々の生活もさることながら、先を見据えた町づくりが我々には求められているのではないのでしょうか。

十月八日をもって、今年度の歴史講座も終了となりましたが、ご多忙の中、講師を引き受けてくださった元(財)アイヌ民族博物館館長の中村齋氏には、改めて感謝申し上げます。また講座に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。今後とも白老のいっそうの発展のために、貴重なご意見・ご感想を聞かせていただければと思います。

### 大盛況のアイヌ文化フェスティバル

十月十六日(日)に開催されたアイヌ文化フェスティバル、みなさんは会場に足を運ばれましたか?すでに恒例となった印象もありますが、その年によって出演者・来

場者も様変わりしていますので、毎回違った面白みがあります。特に今年度は、子どもたちの参加が目立ちました。仙台の秋保(あきつ)からは、ユネスコ無形文化遺産にも登録された田植え踊りの次世代の担い手たち、そして札幌から来町した『札幌子どもミュージカル育成会』の子どもたちの元気いっぱい演技に、例年以上に熱気と英気が溢れるフェスティバルだったのではないのでしょうか。

### 仙台陣屋資料館

も、子どもたちに負けない気持ちで展示会を催しました。今年度は『アイヌ神謡集』を著した知里幸恵と、『原始林』をはじめ数々の著作を発表した森竹竹市、この2名を紹介する展示会でした。



大正時代から昭和にかけて、まだまだアイヌ民族への酷い差別が行なわれていた中、2人は日本語で著した随筆や著作を通じ、広く世の中にアイヌ民族について、アイヌ文化について、そして同化政策や差別について、自身の想いを訴えています。もちろん想いはそれぞれに異なります。生い立

ち・接触のあった人など、著された内容は2人の成長過程や人生経験が反映されています。当時、2人のように著作へ想いを込めたアイヌ民族は、ごく少数しかいません。アイヌ民族と和人が共に生きる未来のためには、これまでの歴史とその捉え方を、いっそう深く考える必要があります。そうした意味からも、知里幸恵と森竹竹市がつづった想いは、とても貴重なのです。

### 社台一遺跡巡回展

町内小中学校埋蔵文化財巡回展の、十月二十一日からの日程は次の通りです。生徒の皆さん、保護者のみなさん、それと先生方、どうぞお楽しみに。

- 白老小学校 十月二十一日(金)～二十八日(金)
- 虎杖小学校 十月二十八日(金)～十一月四日(金)
- 萩野小学校 十一月八日(火)～十一日(金)
- 緑丘小学校 十一月十一日(金)～十七日(木)
- 社台小学校 十二月二日(金)～九日(金)

「仙台陣屋かわら版 第八十一号(平成二十三年十一月号)」  
発行日: 平成二十三年十月二十日(金)  
発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場